



ご購読ありがとうございます

7月28日(木)

発行所 長野日报社
〒392-8611 諏訪市高島3 0266-52-2000(代)
©長野日报社2022

気候変動対策を考える

諏訪湖の生態系、御神渡りテーマに

諏訪 高校生らグループ討議



気候変動の影響と御神渡りの継承について話し合う参加者たち

気候変動の仕組みや影響に理解を深め、対策について考える討議会が27日、諏訪市駅前交流テラスすわっチャオであり、諏訪地域の高校生と高齢者など約20人が参加した。諏訪湖の生態系や御神渡りをテーマに講義やグループ討議を行い、御神渡りの継承と持続可能な社会の在り方について話し合った。(唐沢宏)

冒頭、諏訪市出身で環境イノベーション情報機構理事長の功刀正行さんが「海から見た気候変動」と題して講演し、気候変動の仕組みや影響を分かりやすく解説した。また、信州大学名誉教授の沖野外輝夫さんが諏訪湖の生態系について説明し、八剣神社(諏訪市小和田)の宮坂清宮司と氏子の宮坂平馬さんが室町時代から続く御神渡りの判定や神事について語った。

功刀さんは「人間の影響は、少なくとも過去2000年間に前例のない速度で、気候を温暖化させてきた」と指摘。討議会を企画した筑波大学大学院生の福村佳美さん(21)は「茨城県つくば市」は「諏訪の気候は御神渡りの文化を育ててきたが、近年は氷が張らない『明けの海』が続いており、警告と受け止めることが出来る。討議会を通じて気候変動対策が自分事になれば」と話していた。

討議会には諏訪清陵高校や岡谷南高校、東海大付属諏訪高校、富士見高校の生徒をはじめ、シニア大学で学ぶ高齢者が参加した。松下幸之助記念財団の支援を受けた研究プログラムで、地元のNPO法人SUWA学び推進フォーラムが協力した。